

工學博士 大石源治君小傳

本會評議員東北帝國大學教授從四位勳四等工學博士大石源治君溘然として卒去せらる。嗚呼悲しい哉。

君は明治二十年八月十日山口縣下關市に生れ、豊浦中學校、第七高等學校を経て東京帝國大學工科大学冶金學科に入學し鐵冶金學を專修して明治四十五年七月卒業するや八幡製鐵所に入り製鐵所研究員となり銑鐵部鎔鑪附を命ぜらる。其後鋼材部製鋼工場附、職工養成所講師拜命、大正五年五月製鐵所技師に任ぜらる。

同年九月外國留學生を命ぜられ英國シェフィールド大學及マンチェスター大學に於て鐵冶金學を研究し、大正八年七月歸朝、製鐵所研究所勤務を命ぜらる。

大正十年東北帝國大學工學部に金屬工學科増設に決定するや其創設の重任に當らるゝことゝなり大正十一年九月東北帝國大學講師を囑託せられ、大正十二年五月官制發布と共に東北帝國大學教授に任ぜらる。爾來金屬工學第一講座（鐵冶金學）を擔任し學生の教養並に學術の研究に没頭せられ、又長く主任教授として教室事務を擔當せらる。同科の今日あるは實に君の功績に待つ所大なるものなり。

昭和四年十一月研究論文「熔鋼の滿俺と鎔滓」に依て東京帝國大學より工學博士の學位を授けらる。

本年三月感冒より中耳炎となり急性肺炎を併發して二十四日東北帝大病院に入院し加療を加へられしも其效なく四月二日午前十一時遂に卒去せらる。行年四十七。

君資性溫厚篤實、鐵冶金學の研究に従事すること二十有餘年、不斷の努力を以て有用なる多くの研究を發表し實に斯界の權威者たり。又學生に對しては親切誠實教へて倦まず學生の君を敬慕すること慈父の如く實に學者教育者としての典型たり。

今や學術を振興し産業を獎勵して我國の實力を更生すべき此の重大時期に際し此の有爲なる人才を失ひたることは邦家のため誠に痛惜に堪へざる所なり。茲に謹みて哀悼の意を表す。

社團法人 日本鐵鋼協會